

(中略)

5月25日(木)

国連軍マコノギー総司令は中央情報部長に対し軍事革命の既成事実を認める言明をした。

最高会議令第12号をもつて農漁村の高利債整理施行を布告した。

それで同年6月20日発行の第31号には、この韓国での軍事クーデターについて所感として次のように書いています。

1961(昭和36)年6月20日発行福岡貿易月報第31号より(原文のまま)

報道と解説

1. 解説と見通し

すこし旧聞に属するが5月16日午前7時のラジオ・ニュースで韓国に軍部クーデターが発生し既に無血革命に成功したという報道には日本国民は政府といわずすべての人が一様に驚いたことである。そして当日深夜まで刻々に伝わるニュースに耳を傾けたのである。前日自民党韓国訪問使節団の一行は池田首相を訪ねて使節団の成果を報告し、張勉内閣は民主革命一周年を迎え安定した内閣として長期政権担当の見通しであるにつけ加えたのである。その翌日クーデターが発生した折柄の国会では社会党からそれ見たことかといわんばかりにクーデターを取り上げて、政府の見通しが甘かったのではないかと追及した。クーデターなるものが前もって判るようならばクーデターの発生もなければ予防対策もできていた筈で、韓国自体が発生を予見することができなかつたわけで、まして日本でこれを予知し予見することは無理でありこれを追求する側に非があると思われる。斯くいう筆者も本紙第29号で、革命一周年を迎えた韓国も漸うやく民主国家の根を下ろしたと解説したのであるが、その内容において政治、経済、民心ともに不安定で革命一周年記念前後には政党的政府攻撃と与党の派閥内訌によつて張勉内閣はゆさぶられ続け、政府の意図する法令の一つでさえ容易に国会を通過せず、左翼と学生は北朝鮮側の呼びかけに応じて南北統一学生会議を開く寸前であり、民生は失業者の増大と食糧難或いは物価高のために4月危機説が充満して、革命記念日に何事か勃発するのではないかと見られていたことは充分報道もし解説も加えたのであるが、起こるべくして起きず平穩に革命記念日乗り切つた張勉内閣が、まずは安泰で尹大統領も張勉首

相もホツとした気持で今後の抱負を語っているのを見て、一応落ち付いたと見ることは当然であつたと思う。

軍事クーデターが一部の軍人によつて3ヶ月前からひそかに計画し、3週間前からいよいよ本腰を入れ訓練と調査を練つていたことが明らかになつたが、その間に一、二国連軍に通牒するものもあつたが国連軍当局では一笑に附していた。またクーデターは5月12日を実行日としたが通牒によつて日時を変更している。当日演習に名をかりて漢江に向かつた部隊に、米軍の顧問団将校が同行し渡橋に当たつて計画が違つた問題を引き起こし、これをうまく騙すのに苦労したと伝えられている。また通牒された結果漢江の手前には憲兵が配置されてこれと若干の交戦をしており、張勉首相は逸早く宿舎の半島ホテルから逃げ出して友人の宅に身をかくしておる。しかし韓国国内でも一部には多少の予知があつたことは窺われるが、斯くも大きなしかも全軍的な軍事革命が成功するとはだれもが予見しなかつたことを信じる。

クーデターの発生直後わが国で内閣記者団は大平官房長官との会見において、こんな大事件を予見できなかったかと恰も社会党の代弁者のような質問をしたところ、大平官房長官は新聞だとして知らなかつたではないかと逆襲し逃げをうち、さすがの猛者連もグーのねが出なかつたといわれている。今度の事件はまさにその通りであると思われる。

(中略)

2. 報道の真実

新聞が社会の鏡であることに異論はない。またそうあつてほしいと思うのは筆者ばかりではあるまい。政治・経済・社会・文化・スポーツのあらゆる面において前日の出来事が鏡のように翌朝の新聞に掲載されねばならない。新聞記事が日常生活の心の糧となり知識となつてわれわれは生活する。新聞に対する世人の信頼性と求知性はよいよ加わつている。しかし記事を資料とした行動の予見として見るときに甚だ頼りないものを感じる。記事が先送りして真相が尻切れとんぼであつたり、整理の都合で頭と尻だけで中身のない記事にぶつつかることが多い。また同じ事件を取材してもA紙とB紙の記事が違うときも尠なくない。どちらの記事が正しいのか判断に迷う場合もある。

韓国クーデターの報道や解説についても各社の見方が区々であつた。日本経済は予断許さぬ成りゆきと題して国連米軍が張勉政権を支持しているの革命は短期に終るであろうと、今日から